

びぶりおてか



同志社大学図書館報 №17. 1975. 4. 1

今日の図書館

図書館長

三木英雄

新しい図書館が開館されて1年有余、もうすっかりこのキャンパスに調和し、学生諸君の大学生活に欠かすことのできない図書館の利用も、日とともに増してきているようである。これも、この図書館建設にかかわってこられた諸先生、諸先輩のご計画が早くも実を結びつつあることを如実に示している。私達はここに、改めて諸先輩のご努力を憶い起こすとともに、今後も引き続き大学図書館としてふさわしい、内容面での充実、日夜創意工夫と努力を積み重ねていくことで、これまでの関係者の方々の労に報いたいと思っている。

新入生諸君、諸君は今後4年間の大学生活の充実のために、おおいに図書館を利用していただきたい。図書館の利用法を早くのみ込み、積極的に図書・資料になれ親しむことが大切である。学年始めや試験期には、これが図書館か？と驚く程、利用者の多い時もあるが、諸君も気おくれすることなく、効果的に利用していただきたい。

大学図書館の使命として、学生諸君の自学自習のため、あるいは調査研究のための図書・資料・設備の充実、激増する学術情報に対処する収集組織の充実、書誌・レファレンスを含めサービス面の充実等が考えられなければならない。数多くの懸案を一つ一つ、可能な範囲で整備してゆきたい。これは、図書館独自で解決しようものもあれば、学内の諸機関との相互協力、または大学間、地域間、国際間の相互協力が必要となるものもあろう。いずれも長期的な視野での努力を続けたいと考えている。

昨今の社会経済状況は、まことに厳しいものがあるが、図書館として、当面懸案の1つに、3階未仕上げ部分の完成がある。書庫あるいは特殊閲覧室として、その内容面を十分検討しながら、計画して遅くない時期にきている。学内各方面の貴重なご意見と、ご理解ご協力を得て、大学の心臓部と称されるにふさわしい図書館の内容充実を計っていきたいと念願している。

読書は人生に

新しい世紀をひらく

文学部教授

児 玉 実 用

フランシス・ベーコンは「読書は博識者をつくる」といい、ジョン・ミルトンは「良書は心の貴とい生き血である」といった。読書の効用については、古今東西幾万の名言がある。また、昔から読書によって、人間がその生涯を決定した例は数限りがない。だが逆に、読まなかったことを歎き悔む例も同じくらいか、それ以上あるようだ。

大学卒業後10年、20年、社会の人となってから寄せられる便りの多くには、「学生時代にもっと本を読んでおけばよかった、と今更ながら後悔しています」ときまって書いてある。つまりそれは、大学という人生最終の学校にいる間こそ、いかに生涯最高の読書期間であるかを、嫌というほどよく告白しているにほかならない。だからその二度とかえらぬ大学時代に本格的に読書と取組むべきは言うをまたないことである。まことに若き日の読書は、年を経ていつまでも脳裡を去らないものであるからである。

では、どんな書物を、どう読めばいいか。現代のように良書悪書の氾濫時代には、それは余程考えねばならないことである。若者の好奇心をそそる、今にも飛びつきたい、キワものの書物も沢山出ている。それらのすべてが悪書だとはいわないまでも、中にはゼロかマイナスのものも少くない。ゼロに幾らゼロをタシても、カケても、ゼロである。そのゼロとかマイナスとかを批判させてくれる識見の泉となるようなものをこそ読まなくてはならない。

それは何といっても東西古今の古典に決っている。幾千年、幾百年の風雪にもめげず、今日まで堪え残ってきた古典の列に、まず目をむけるべきである。では古典とは？それについては、かつて多くの具体例を、やはり学内誌に書いたことがあるので今は省くが、世界の多読家ヘルマン・ヘッセやエズラ・パウンドらの書に案内されるのが最適であろう。古典の読破によってはじめて、あらゆる書物を測る尺度が、おのずから心の中にできてくる。そして真に新しく、真に価値ある書物をうんぬんする資格がそこから生れてくる。なかんずく、同志社に來たからには、Book of Books ともいわれる聖書は必読である。

最近、著者又は著作に「ツイテ」書かれた書物が多すぎる。それもいいが、原著ズバリに体当たりすることが何より肝腎だ。いくら知ったらしいことをいえても、本物を知らずしては何にもならないからである。

読破といってもなまやさしいことではない。幾たびか挫折の危機が訪れる。そんな時にも「最後まで耐え忍ぶ者は救われる（マタイ伝）」という固い信念で飽くまで続行することだ。読書に王道はなく、読書は理窟ではない。実行である。自分から進んで読む時間をつくり、読んで読んで読みまくらねば、いつまで経っても読めるものではない。その習慣をつける努力が、大学人の列につらなる努力だと思ふ。

狭い専門の書物なら30冊、どんなに怠けても10冊は読みたいもの。無論そればかりでなく、関連するあらゆる分野の書物をできるだけ多く。そして知識を深めるのは勿論、よく読み、よく知り、よく考え、且つよく忘れて、あとに鍛練された精神を残し、人格の陶冶に資することも忘れてはならない。

また「書物の中に自分を読まず、書物の中に巻きこまれず」ということも大切だと思う。読書に当っては、心を空しく、謙虚に持って、書物に對することだ。一つ一つ著者に反撥したり勝手な否定を繰り返しながら、カタクナにも自己主張ばかりしつつ読書するくらいなら、いっそ読まないがいい。反対に、スッカリ書物に巻きこまれ、無批判にも易々と著者にカブレしてしまうことも愚である。蓄積されてきた英知から、新たに読む書物に對し、読後の批判ができるようになることもまた肝要である。

こうして読みに読んで行くうちに、やがてハタと一冊の書物とめぐりあい、それが自分の生涯に、はからざる新しい世紀のひらめきを投げかけてくれるであろう——人の世の偉大な人とめぐりあいさながらに。

幸いに同志社大学には、新しく大きな図書館がある。英米その他諸外国の大学図書館で見ると、利用教授や学生達の、あの研究熱に輝いたマナコ、それを心に描くだけに読書欲がかきたてられる。むかし「図書館はわたしの王国」といったイギリス人がいる。「王国」に抵抗を感じるならば、「図書館こそわが家」とばかりに、それと親しみ、それを読書学究の基地にする生活をしたいものである。

キリスト教に関する二次文献について

今回は、キリスト教に関する二次文献をとりまとめた。参考の手引になれば幸いである。配列は、各項目の主題別の出版年順とした。なお、字数の都合で、止むを得ず、本館所蔵の二次文献で、総括的にまとまったもののみ限定し、人文・社会・自然各科学の総合的文献目録の中で、ひとつの項目として、キリスト教をとりあげているもの、単年度の総目録等及び既刊の本誌上で、他主題の二次文献の中で、紹介ずみのものについては、重複を避け、いずれも省略した。

〔1〕 キリスト教全般に関するもの

1. 基督教(主として新教)の部(宗教関係文献年表)

<野々村戒三編『明治文化全集』第19巻 日本評論社 昭3 P.555~562> (Ⓔ210.6;M5)

天保11年から明治23年までのものを対象として収録。聖書の翻訳については、明治以前に遡り、最も古きものより明治に入るまでの由来を明らかにしている。但し、明治になって所謂翻訳委員の手になる和訳事業のことは、明治11年以後のものは省略されており、又聖書註釈書も割愛されている。

2. 明治初期宗教資料〔基督教〕

<重久篤太郎編『愛書趣味』第4年第1, 2, 3号 昭和4> (Ⓔ010.5;A2)

明治初期刊行の宗教書(基督教)で、明治文化全集「宗教編」の年表に洩れたものを収めている。「聖教会要課」「教法改革かるびん言行録」等。

3. 基督教文献仮目録

日本神学校編 昭7 126P. (Ⓔ016.27;N2)

天保九年より明治30年(1838—1897)に至るキリスト教関係書目を収む。聖書、讃美歌、註解書、神学書、伝道書、トラクト、その他の参考書等。

4. 基督教古典図書目録

上田貞治郎編 上田文庫聖書館 昭和15 238P. (Ⓔ016.27;U)

明治以前の切支丹宗の文献をはじめ、基督教を排斥した攻撃文献にいたるまで、いやしくも耶蘇教に関係したものは文献に止まらず、史料に関する切支丹制札の類に至るまで文献資料を収む。

5. 明治期基督教関係図書目録

青山学院大学間島記念図書館編 昭和29 119P. (Ⓔ017.77;A2)

キリスト教に関する文献として、青山学院大学図書館が収集した明治25年までの文献に、兼藤栄氏の寄贈された文献を加え、さらに明治45年までの図書が加えられている。

6. Christianity in Japan

Compiled by Arimichi Ebisawa, International Christian University. 1960 171P. (Ⓔ028.19;E)

This Catalogue lists books and manuscripts connected with Christianity which were written in Japan and China and in Japanese and Chinese between 1543 and 1858.

7. 日本キリスト教文献目録—明治期—

国際基督教大学アジア文化研究委員会編 国際基督教大学 昭和40 429, 62P. (Ⓔ028.19;K)

前記6.『Christianity in Japan』に続くもの。明治期、即ち、開国より明治末年(1858年—1912年)にいたる期間の日本キリスト教関係(主としてプロテスタント関係)の文献目録である。わが国で著訳されたキリスト教関係の漢図書を収録。わが国におけるキリスト教関係出版図書目録として最も充実したものといわれている。

〔2〕 各主題別に関するもの

8. ゼスイト布教関係書類目録

<河野元三編『史学雑誌』第11編 第7—9,11,12号 明治33> (ⒺP200.1;S2 (v.11))

西暦1500~1600年間に於いてゼスイトの師父が年々その布教の状況を法皇庁に報じた書類の目録を収む。

9. Annual Letters of the Early Christian Mission from Japan, China, etc., Chiefly collected by Sir Ernest M. Satow in 122 volumes.

<『史学雑誌』第35編 第2号 大正13 P.157~170> (ⒺP200.1;S2)

1552年より1709年までの年々の文書の目録を収む。

10. Bibliography of Jesuit & other Missions

<『史学雑誌』第35編 第1号 大正13 P.68~74> (ⒺP200.1;S2 (v.35))

11. アジュダ文庫に在る日本関係の未刊書に関する
覚書
＜木下奎太郎編『思想』第82号 昭和3 P.671～
680＞（㊦P051;S9）
ポルトガルのアジュダ文庫にある未刊の日本関係の
文書の目録。
12. 切支丹宗門に関する文献解題
＜浜野 眞編『紙魚』第2,3,5冊 大正15—昭和2＞
（㊦010.5;S4）
主として明治以前に出版または舶載された切支丹宗
門に関する文献について解説されている。
13. 天主教の部（宗教関係文献年表）
＜松崎 実編『明治文化全集』第19巻 宗教編 日
本評論社 昭和3 P.550～555（㊦210.6;M5
（19））
慶応元年～明治20年のものを収む。
14. 切支丹典籍叢考
海老沢有道編 拓文堂 昭和18 261P.（㊦011.7;
E）
キリシタン典籍の典拠・編さん・成立過程および文
化史的・宗教史的意義について述べられ、キリシタ
ン史の参考文献も収む。
15. 日欧文化交渉文献目録 —ザビエル渡来四百年記
念—
国立国会図書館, カトリック文化協会編 昭和24
86P.（㊦016.277;K）
キリシタン関係の文献書目が収めてある。
16. キリシタン史文献解題
海老沢有道, 助野健太郎編 キリスト教史学会
昭和30 50P.（㊦016.27;E）
研究入門者用として、欧文と邦文の主要参考文献を
収む。
17. 吉利支丹文献考
土井忠生編 三省堂 昭和38 426P.
（㊦011.7;D3）
キリシタン文献に関する著者の論考17編の他、多数
の関係文献を収む。
18. 天草史研究文献分類目録
＜鶴田八洲成編『キリシタン文化研究会会報』第十
年第三・四合併号 昭和43 P.22～60
（㊦P197;K5）
天草学林, 天草之乱他多くの項目を収む。
19. 切支丹・蘭学集
＜杉浦明平編『日本の思想』第16巻 筑摩書房
昭和45 368P.＞（㊦121;N4（16））
巻末に、キリシタン通史, 妙貞問答, 破提字子等の
参考文献を収む。
20. 景教碑関係陳列品目録
＜桑原隣蔵編『史林』第8巻 第4号 大正12
P.683～686＞（㊦P200.1;S4（8））
モリソン文庫の援助を得て、景教碑に関する文献を
収む。
21. 都市伝道に関する参考資料
＜竹中勝男編『基督教研究』第7巻 第12号 基督
教研究会 昭和5 P.158～165＞（㊦P190.1;K
11）
近代都市並びに都市社会生活の社会心理学的, 社会
病理学的研究に関する資料, 直接都市伝道に関する
文献資料を収む。
22. 日本基督教史関係漢書目録 1590—1890
基督教史学会編 文見堂書店 昭和29 129P.（㊦
016.279;K）
キリスト教伝来以後明治23年までのキリスト教関係
の和漢書を収む。
23. 文学・哲学・史学・文献目録 IV—宗教関係学術篇
日本学術会議第1部編 昭和30 151P.（㊦028;N
（4））
1945年8月から1954年6月までに発表された宗教関
係の文献を収む。キリスト教（P.30～61）の項目
がある。
24. 新約聖書解題
山谷省吾編 新教出版社 昭和33 392, 10P.（㊦
011.7;Y）
手紙・歴史・啓示書に分けて重要事項をえらび、各
項に関する文献を比較研究したもの。巻末に主要文
献を収む。
25. 聖書大辞典 増補版
日曜世界社編 新教出版社 昭和39 1423, 78P.
（㊦191.33;S）
聖書に関する約4500項目を解説した辞典。巻頭の
「聖書研究の手引」と巻末の「旧新聖書研究の概観」
は、内外の多くの参考文献を含んでいて、入門のよ
い手引となる。
26. 新聖書大辞典
馬場嘉市編 キリスト新聞社 昭和46 1570, 233P.
（㊦191.33;S3）
旧新約聖書のあらゆる事項が網羅されている。主要
な項目については、それぞれ参考文献が掲載されて
いる。
27. 内村鑑三研究文献目録
国立国会図書館調査立法考査局編 昭和35 150P.
（㊦012.27;U）
明治14年より昭和35年6月までのものを収録。
28. キリスト教社会問題研究会所蔵文献目録
同志社大学人文科学研究所キリスト教社会問題研究
会編 昭和42 240, 25P.（㊦029.6;D）
本研究会が昭和31年発足以来昭和41年3月までに収

集した図書を収めたものである。

29. 原始キリスト教史の一断面—福音書文学の成立—

田川建三編 勁草書房 昭和43 365, 8 P.

(㊦193.13; T 2)

巻末に原始キリスト教史の文献目録がある。

30. キリスト教図像辞典

C.R.モーリ G.ファーガソン著 中森義宗訳編

近藤出版社 昭和45 168P. (㊦195.8; K)

巻末に「わが国のキリスト教図像」の参考文献をあげている。

31. カトリック大辞典

上智大学編 富山房 昭和45 (㊦198.2; K3(1~5))

第1巻巻末に「キリシタン参考文献」がある。

32. 日本宗教史研究入門—戦後の成果と課題—

＜笠原一男編『日本人の行動と思想』別巻1 評論

社 昭和46 222, 104P.＞(㊦160.21; N6(S:1))

キリスト教の項目あり、巻末に研究論著目録がある。

33. キリスト教組織神学事典

東京神学大学神学会編 教文館 昭和47 353P.

(㊦194.03; K 2)

各項目の末尾に参考文献が収めてある。

34. キリスト教倫理辞典

佐藤敏夫 大木英夫編 日本基督教団出版局 昭和

47 382P. (194.8; K)

各項目の末尾に参考文献がある。

35. The Oxford Dictionary of the Christian Church, Second edition.

F. L. Cross and E. A. Livingstone 編 Oxford

University Press, 1974 1518P. (㊦190.33;

O-1a)

各項目の末尾に参考文献がある。

〔3〕その他

36. 『六合雑誌』マイクロフィルム版総目録

同志社大学人文科学研究所基督教社会問題研究会編

日本資料刊行会 (㊦P051; R5-2)

明治13年10月(1号)~大正10年2月(481号終刊)

までのものを収む。

37. 『新人』総目次

同志社大学人文科学研究所編 昭和48 284P. (㊦

P190.1; S26-2)

明治33年7月(1巻1号)~大正15年1月(27巻1

号)までのものを収む。

38. 『新女界』総目次 付『新女界』刊行一覧表

＜青木次彦編『人文科学』Vol. I, No.3 昭和46

P.129~220＞(㊦P051; J 8)

明治42年4月の創刊号から大正8年2月の終刊号ま

でのものを収む。

39. 『キリスト教社会問題研究』総目次(第1号~第14・15号)

同志社大学人文科学研究所キリスト教社会問題研究

会編 昭和44 P.293~297 (㊦P194; K 2(第

14・15号))

第1号(1958.5)~第14・15号(1969.3)までの

総目次。

40. キリスト教社会問題研究会雑誌新聞目録

同志社大学人文科学研究所キリスト教社会問題研究

会編 昭和45 80P. (㊦027.5; DA)

この目録には、同志社大学人文科学研究所キリス

ト教社会問題研究会が昭和44年6月30日現在所蔵す

る雑誌・新聞を収む。

41. 雑誌記事索引(人文・社会編)

国立国会図書館編 月刊 (㊦P027; Z)

キリスト教の項目がある。国立国会図書館に毎月受

け入れられた雑誌に掲載されている論文を収録した

ものである。巻末に収録誌名一覧が付されている。

別冊として『雑誌記事索引』の『著者索引』がある。

《カウンターから》 ロッカーのこと

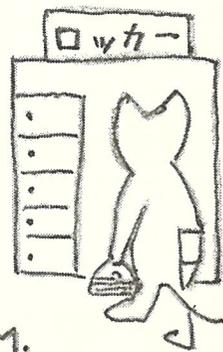
毎日の業務の中でも、ロッカーの管理は大きな悩みの一つである。

ロッカーは456個あり、持物チェック内の座席数合計449席に見合うように考えてある。現にロッカーが不足したのは、オープン直後の試験期だけだった。と言ってもこの時は、実際には3分の1位のロッカーが使用不能だったのだから無理もない。キイが無くなってからである。オープン早々であったから、たぶん記念品として持ち帰ったのだろう。現在ではさすがに減り方が少なくなった。こんなものを持っていても、投機にはならないからつまらない。

これとは逆に自分の物を置いて帰る人が居る。運動着一式が多い。週1回の体育実技の度に、持って来るのが面倒なことにはわかるが、みんながこんな使い方をしては、いくらあっても足りはしない。コート、図書のほか、リボンがけのプレゼントもある。相手に会えなかったのだろう。こういう遺留品は回収して取りに来た時に叱っているが、恐れをなしか最後まで取りに来ない人もある。気の毒ではあるが持主がわからないのだから、どうしようもない。世の中が豊かになったのだなと改めて感心する。

一つのロッカーに何十本ものキイを閉じ込めているような、いたずらもある。こんなくだらしないことをする暇に図書をあさればよい。

近々、60個を追加はするが、利用者みんなの為に迷惑をかけないように、お互いに心がけて使ってほしいものである。

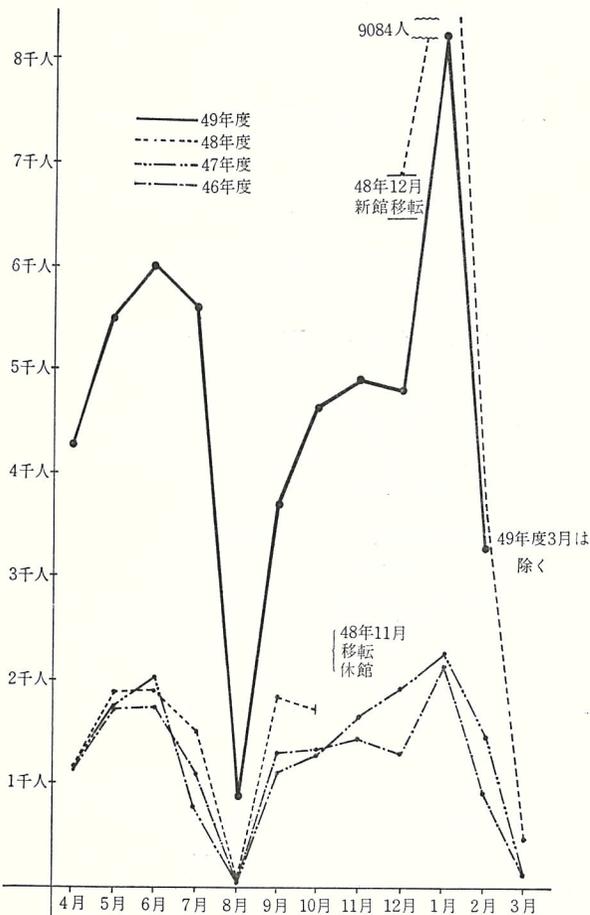


図書館利用統計

I 新図書館と旧図書館の比較

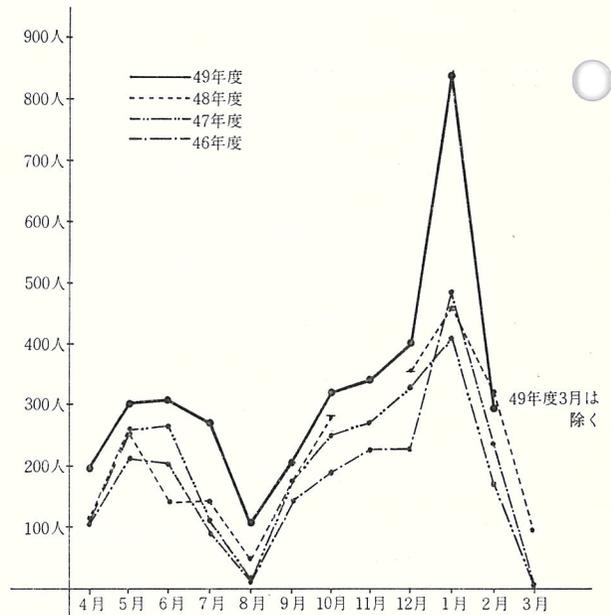
48年12月に新図書館に移転してから1年数ヶ月になります。その間目まぐるしい日々を送ってきた私達館員にとって新しい図書館がどのように利用されているのか非常に関心の深いことでした。そこで過去数年間の利用状況の推移を通して新館と旧館を比較し、あわせて今後の図書館運用の糧にしたいと思ひます。

表1 入館者数（1日平均）の推移



注 46～48年10月（旧館）までの入館者数は有隣館，自由閲覧室及び新町読書室の合計。新館移転後は地階各閲覧室及び1.2階各閲覧室利用者を合計したものである。尚，旧館では出入口扉の開閉度数を以てした数，新館では光電管による数値を以てしたものを入室者数としている。

表2 館外貸出者数（1日平均）の推移



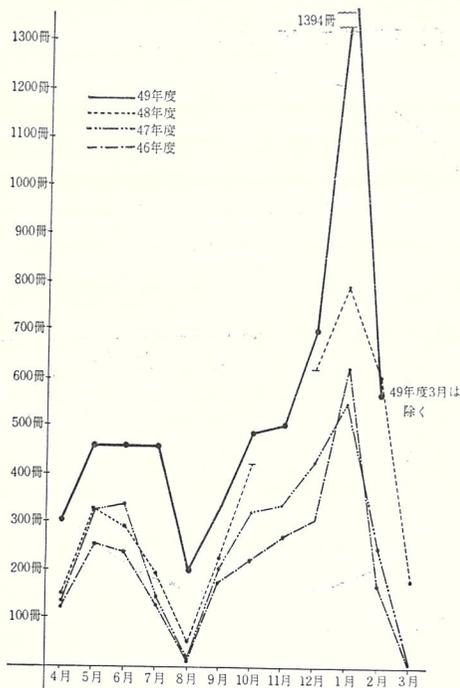
注 46～48年度10月までは有隣館，自由閲覧室での館外貸出者数の合計。移転後は開架閲覧室及び書庫の館外貸出者数の合計。

利用状況の比較といっても、利用の仕方、集計方法等に大きな差があるので、すべての項目にわたって比較できないが、入館者数、館外貸出者数、貸出冊数の項目について検討してみたい。表1をみると48年度6月を除けば毎年度順調に伸びて来ている。特に48年12月からは旧館のそれと比べると大きな伸びを示している。月別の変化をみると、新館移転後からは期末試験期にあたる1月が他の月に対して異状に高くなっている。40～43年度の4ヶ年間を調査した資料（「図書館一般利用統計」、びぶりおてか No. 6）と比べると非

常に大きな特色となっている。これは座席数の増加，設備の充実等によるものと推測できる。

表2の館外貸出者についてみると、46年度1月が49年度に次いで多いのは、期末試験が大学紛争のため初めて全レポート制に切りかえられたためである。同じく49年度1月も全レポート制であったが、その差は著しいものがある。

表3 館外貸出冊数（1日平均）の推移



注 46～48年度10月までは有隣館、自由閲覧室での館外貸出冊数の合計。
 移転後は開架閲覧室及び書庫の館外貸出冊数の合計。

又新館移転後である48年度1月と49年度の同月とを比べてみると、全レポート制が図書館に与える影響がいかに大きいかわかる。

表3、館外貸出冊数の推移も同じく各年度順調に伸びており、新館移転（48年12月）からは急激な伸びをみることができる。表2でふれたように貸出者数は46年度1月は47、48年度の同月より多くなっていたが、冊数でみると48年度は逆に多くなっており、新館での影響がすでにあらわれている。49年度1月での異状な伸びは先に述べたとおり全レポート制のためと考えられる。

表4、5の月単位の貸出者、貸出冊数をみると、48年度6～12月、2月が47年度のそれより減少しているが、これは移転準備のための貸出制限、開館日数減少等によるものと思われる。46、47年度（旧館）に対する49年度の貸出者と貸出冊数の伸び率をみると、貸出者よりも貸出冊数の伸び率が高いことがわかるが、これは1人当りの貸出冊数の増加を意味する。表1～5の資料で各年度の利用状況の推移をみてきたが、太まかに云えることは毎年順調に利用が増加してきたが、新館移転後は急激に増加したということである。それは旧館に対しての座席数の増加、設備の充実と云った消極的理由はもとより、開架、雑誌参考図書室の充実と云った積極的なサービスの結果と思われる。

表4 館外貸出者数（月別）及び対前年度比の推移

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年合計
旧館	46年度人数	2,516	5,145	5,334	2,632	218	3,461	4,916	5,178	4,328	10,268	4,221	303	48,520人
	47年度人数 (対前年比)	2,548 (101%)	6,333 (123%)	6,940 (130%)	3,201 (122%)	321 (147%)	4,004 (116%)	6,273 (128%)	6,070 (117%)	6,183 (143%)	9,541 (93%)	3,508 (83%)	276 (91%)	55,198人 (114%)
	48年度人数 (対前年比)	2,613 (103%)	6,387 (101%)	6,142 (88%)	2,844 (89%)	151 (47%)	3,639 (91%)	5,701 (91%)	移転のため 休館	4,454 (72%)	10,369 (109%)	2,896 (83%)	260 (94%)	45,456人 (83%)
新館	49年度人数 (対前年比)	2,718 (104%)	7,240 (113%)	7,540 (123%)	5,028 (177%)	340 (225%)	4,182 (115%)	8,054 (141%)	7,352	7,559 (170%)	16,573 (160%)	4,068 (140%)	未	70,654人 (155%)
	46年度=100とする	108%	141%	141%	191%	156%	121%	164%	142%	175%	161%	96%		146%

表5 館外貸出冊数（月別）及び対前年度比の推移

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年合計
旧館	46年度冊数	3,057	6,075	6,108	3,693	301	4,077	6,772	6,107	5,640	12,364	5,621	445	60,260冊
	47年度冊数 (対前年比)	3,250 (106%)	7,929 (131%)	8,630 (141%)	4,335 (117%)	428 (142%)	4,978 (122%)	7,924 (117%)	7,673 (126%)	8,094 (144%)	12,531 (101%)	4,812 (86%)	407 (92%)	70,991冊 (118%)
	48年度冊数 (対前年比)	3,361 (103%)	8,034 (101%)	7,647 (89%)	3,871 (89%)	218 (51%)	4,653 (94%)	8,410 (106%)	移転のため 休館	7,481 (92%)	16,481 (132%)	5,413 (113%)	575 (141%)	66,144冊 (93%)
新館	49年度冊数 (対前年比)	4,255 (127%)	11,012 (137%)	11,012 (144%)	8,660 (224%)	603 (277%)	6,532 (140%)	12,293 (146%)	11,182	13,318 (178%)	27,874 (169%)	7,993 (148%)	未	114,734冊 (173%)
	46年度=100	139%	181%	180%	235%	200%	160%	182%	183%	236%	217%	142%		190%

II 49年度利用状況について

表6 49年度閲覧室別利用者数(49年度3月は除く)

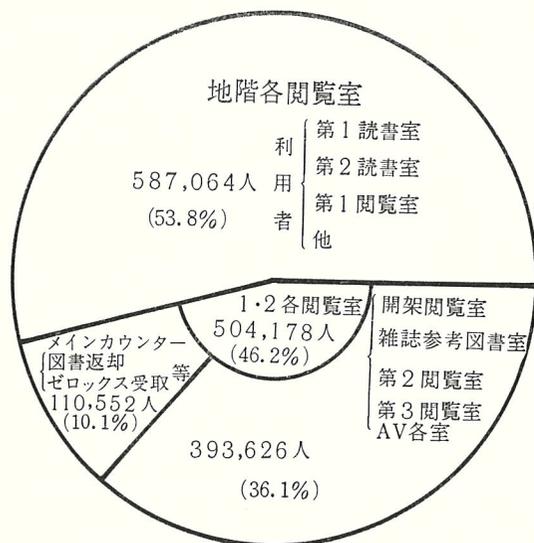
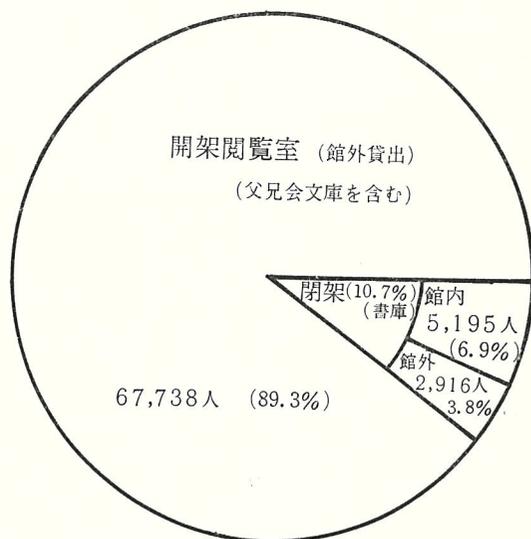
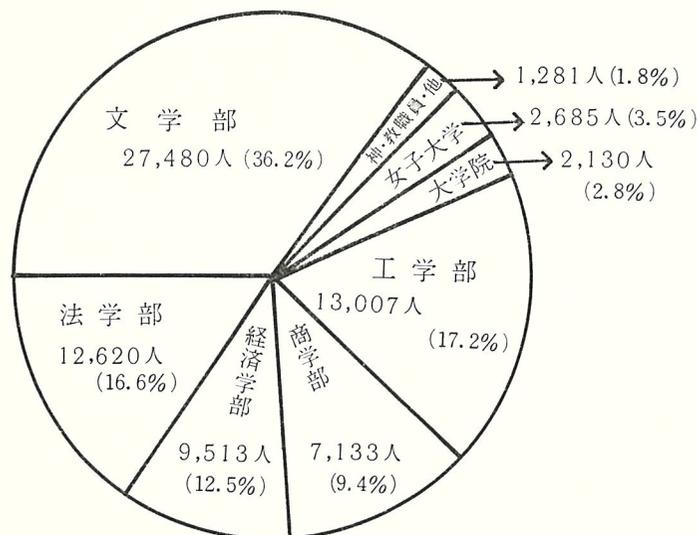


表7 図書利用者の内訳(49年度3月は除く)



注 雑誌参考図書室の図書利用は含まれていない。

表8 学部別図書利用者数(49年度3月は除く)



項目Iでは過去4年間の推移をみてきたが、現在図書館ではどのような利用のされかたをしているのか、49年度の利用統計を通してみたい。新図書館では周知のとおり玄関を起点として、図書利用する者(1.2階に上る)と自習する者(地階に下る)とがそれぞれの目的に沿ってわかるように配慮されている。さらに1.2階に上る者は、開架、雑誌参考図書室で直接図書を利用する者と、図書の返却、文献複写の受取り、目録カードの検索、登録等の者とに分けられる。その内訳を図で表わしたのが表6である。ただし同じ利用者が地階と1.2階両方を利用することも考えられるので、入館者総数ではかなり重複している。

附表 49年度学生数(1974.5 現在)

	神学部	文学部	法学部	経済学部	商学部	工学部	合計
学生数	81人 (0.4%)	5,234人 (26.2%)	3,989人 (20%)	3,613人 (18.1%)	3,786人 (19%)	3,247人 (16.3%)	19,950人 (100%)

表7が示すとおり、図書利用の中心は開架閲覧室であることが一目でわかる。参考図書の利用については調査できないが、試験期に満席にな

ったり、参考図書の複写件数等を考え合せると非常によく利用されていると思われる。

表8とその附表を対比してみると、学生数では5位である工学部は利用者数では2位であることがわかる。又商学部は学生数では3位で、法・経と比べてあまり差がないのに、利用者数ではその差が大きいのがわかる。こうした現象は過去の資料にもあらわれており、商学部学生が必要とする図書資料の不足によるものか等を、一度調査する必要がある。

同志社大学図書館の歴史（その9）

大正から昭和へ

大正後期から昭和初年，すなわち1920年代の同志社は，1920（大正9）年，海老名弾正（熊本バンド出身，1879年同志社神学校卒業・牧師）を総長に迎え，「大学令」による大学の新発足，新図書館（現在：啓明館）の開館とともに幕を開くのである。そして，第1次世界大戦後のインフレーション，内外の混乱のなかにも，新生の慶びと意気のうちに着々として，整備・充実が進められ，1924年（大正13）年には創立50周年を迎えることとなるのである。

図書館についての制度上の整備は，すでに1917（大正6）年に，まず，「同志社図書館規則」が制定されて，館長を置くことが明文化され，ついで1918（大正7）年には「同志社職制」が制定されて，図書館の職制についても，これに含められることとなり，館長，司書を置くことが定められた。そして，図書館は本部・大学・中学・女学校と並置される機関の一つとして位置づけられ，学園全体の図書館という伝統的な性格を保ちつつ，その館長についても「同志社常務理会ノ諮詢ヲ経テ総長之ヲ任免ス」と規定されたのである。

1920（大正9）年4月，大学令による同志社大学の発足によって，当初は新・旧両制度が並存，やがて1922（大正11）年には旧制度の「専門学校令」による同志社大学は同志社専門学校と改称されるが，このような事情もあって学生生徒数が増加することとなった。すなわち，1915（大正4）年には530名，全学園を合わせて1,549名であったのが，1920（大正9）年には1,089名，全学園合計，2,621名となり，1929（昭和4）年ともなると大学学部・予科が1,390名，専門学校は1,115名となり全学園の総計は4,798名となるのである。

上述のような学生生徒の増加は当然図書館の利用状況のうえにも反映して，1916（大正5）年，図書館第1期工事完成直後には閲覧者数10,301人，同冊数9,521冊であったものが，1921（大正10）年には閲覧者数19,246人，同冊数21,026冊と，ほぼ5年間で倍増となったのである。その後，1924（大正13）年には21,603人・27,918冊と増加したが，これを頂点として，横這いもしくは減少の傾向すら見えて，1929（昭和4）年では13,286人・13,631冊，館外貸出冊数1,226冊と記録されている。

一方，図書館の蔵書は1916（大正5）年に37,352冊であったものが，1921（大正10）年には48,403冊，1923（大正12）年には遂に50,000冊を突破し，1929（昭和4）年には61,026冊と増加し，わが国の図書館のなかでも有数の図書館として自他ともに許したのである。蔵書については，このほかに大学各学部の研究室図書が備えられたが，これは1920（大正9）1,116冊で発足し，年々急増して1924（大正14）年には累計14,957冊を数え，その後も増加したものと考えられるが，不明な部分の多いものとなったようである。なお，1925（大正14）年には小林正直理事の寄付金を基金とした小林文庫（本誌No.13参照）が設置されて蔵書の充実に寄与するが，そのほかにも寄贈図書や指定寄付金による購入図書の多数あることを忘れてはならない。



初代図書館長
滝本精一



第2代図書館長
荒木良造

1919（大正8）8月，荒木良造予科教授が館長事務取扱に任命され，のち館長となって1938（昭和13）年まで在任したことは前号にも述べたが，大正末年から昭和初年の時期の館員数は7～9名であって，在職者には荻原芳枝，宇田末継，高橋元一郎，黒田英三郎，田中三郎，郡山俊一，谷口栄之助，大原邦治郎，山本健一，船津亨，森本首次郎，桜井忠一，沢田勇次郎，中尾徳蔵，清水五郎，柳田文治，飯義寿の諸氏の名前が記録されているが，館員の交替は比較的頻繁であったと推察されるのである。なお，専門学校の高等商業部（のち同志社高等商業学校・商学部的前身）は1929（昭和4）年に岩倉に移転するのであるが，この高商には，この年から司書が置かれて，独立の図書室が設けられる計画があったことを物語っている。この高商部の司書には加舎亨が任命されたのである。

実例を中心とした

資料のさがしかた -7-

Reference Counter で学生諸君の質問を受けながら感じられますことは、新入生のときに、図書館の利用案内を眺めるだけでなく、よく読んで、正しく、早く、上手な図書館利用者になっていただきたいということです。

図書館員に聞かなければ、自分で求める資料が手に出来ない利用者ではなく、図書館資料をどしどし自分自身で使って、目的の情報を得られるようになることが大切なことです。

次に資料のさがしかたの例を紹介しましょう。

問題1 価値哲学について調べたい。

※ このように主題が明らかなものは、先づ目録コーナーで、分類目録カードによって探す方法がよい。本学の図書館は、昭和39年まで同志社独自の図書分類表によって図書を分類しましたが、以後は日本十進分類法（新版7版）を一部修正して使用しておりますから、二種類の分類目録が備え付けられています。価値哲学の分類は、旧目録〔118〕、新目録〔117〕の二ヶ所を引いて下さい。又件名目録も昭和39年までに受入れた図書に備え付けられてあります。「価値」という件名を引きますと、価値（経済上）と、価値（哲学上）に分けられてカードが並んでいます。雑誌参考室には、辞典、ハンドブック類が備え付けられていますので、哲学に関する辞典、事典などにより、価値哲学の概要を理解し、参考文献などもあげられていますので更に調べて下さい。

問題2 1930年代アメリカの服装を、絵又は写真で見たい。

※ 分類目録で調べるときは、主題「衣服」を新分類相関索引（分類目録カードケースの上にある）によって引きます。この索引は分類細目表の分類項目を、アルファベット順に排列しています。衣服史という件名は〔383.1〕の分類番号とわかります。旧分類は〔361〕ですから二種類の分類目録カードを引くと、「西洋服装発達史」全3巻、「西洋服装史」、「羞恥心の文化史」、「絵による服飾百科事典」、「原色世界衣服大図鑑」などがあります。新分類208、旧分類908など歴史の双書、全集のなかにも関係資料を見ることが出来ます。件名目録も利用して下さい。

問題3 イギリス主要大学の所在地と、本土の地図を見たい。

※ 雑誌・参考室で教育関係の辞書類を見ますと、The World of Learning〔370.6:W〕があります。世界の主要大学はもとより、研究機関、博物館など、その設立年から機構、学長、所館長名まで詳しく掲載しています。又主要大学名がわかり、日本語で書かれた事典に「世界教育事典」〔370.3;S4〕があります。イギリス本土は「新世界地図」〔290.38;Z-1b〕を見ればよい。

問題4 日本の東南アジア諸国に対する最近の開発援助の推移・情況（概況）を知りたい。

※ この問題は、日本の経済政策と考えられるので、対外経済協力だ、と見当をつけ、分類番号を相関索引で引くと、対外経済協力の項目は〔333.8〕とわかります。分類法から調べる場合は、この問題の意図、即ち、何を、どのような観点から必要なかを正しく判断し、把握しなければなりません。このことは主題を明らかにすることであり、分類表を使用するときの大切な要件です。そこで分類の主網では「経済」〔330〕、要目では「経済政策」〔333〕、更に項目では「対外経済協力」、「後進国開発」〔333.8〕と調べて行き、分類目録カードを引けばよい。「経済協力の現状と問題点」〔333.8;S〕には、発展途上国における経済開発と経済協力の章があって、特にアジア地域の経済概況が詳しく述べられている。又年鑑とか、要覧などによって調べるときは、総合的なものとか、一地域についても総合的に収録されたものは皆〔059〕に収められています。ここでは東南アジア調査会編の「東南アジア要覧」1974年版があり、東南アジア諸国の事情を解明し、経済事情については外国援助および協力について、東方から地理的順序に従ってまとめられている。年鑑類で、特定の主題のものは、その主題に収められていますから、統計年鑑は、〔350.9〕になります。世界統計年鑑は、毎年国連から出版され、統計的数値の正しさでは定評のあるものです。

問題5 日本の環境保護団体、機関（民間官庁を問わず）の活動内容と、所在地に関する資料が見たい。

※ 最近この主題に関する資料は多く出版され、本館では「びふりおてか」No.13に「公害に関する二次文献」の紹介がありますから参考にして下さい。

公害一般は〔519.5〕が分類番号です。分類目録カードを引くと「公害年鑑」1974、「実用公害対策総覧」、「公

害辞典」,「公害問題総覧」などがあります。学会, 団体, 研究調査機関についての歴史とか, 記事・会議録などは, 分類〔060〕のもとに収められています。更に詳しい論文記事なども調べたいときは, 二次文献の索引類を調べて下さい。〔027〕は一般的な書誌類を収め, 特殊主題の書誌は〔028〕です。

問題6 尾崎秀樹が「修羅の世界」という論文をある雑誌に発表したが, それを見たい。時期は1970年頃ですが。

※ 総合雑誌についての索引は, 国立国会図書館が受け入れるものうち, 邦文記事を, 人文・社会編, 科学技術編に分けてそれぞれ収録する雑誌記事索引があります。この索引は毎月刊行されていて, 一年間収録した記事の著者索引を著者名のアルファベット順に別冊刊行しています。尾崎秀樹を1970年の著者索引で引くと, この一年間に14の論文を雑誌に発表していて, “修羅の世界, 一宮沢賢治と中里介山”は「文学」(岩波)38(3)〔70.3〕〔P.60~71〕に掲載されていることがわかります。そこで目録コーナの「雑誌新聞目録カード」を引いて所蔵の有無を確認して下さい。

問題7 “アメリカ連邦制度の構造と機能。について川西誠が発表した雑誌と, 巻号を知りたい。1964~1965年頃だが。

※ この問題も, 雑誌記事索引を調査する方法と, [その他の方法には, 特殊主題の専門書誌〔028〕で調査する方法があります。書誌の分類のもとには, 主題を更に区分し, 例えば“中国関係書誌。は〔028.82〕, “アメリカ関係。は〔028.253〕となっていますから分類目録カードによって引くと, 〔028.253; A〕には「アメリカ学会編アメリカ研究邦語文献目録」がある。この目録には第二次世界大戦後から, 1960年代までの刊行物を網羅的に収録し, 執筆者索引が巻末にあります。索引から川西誠を引くと, 21, 87, 149 とページを指示しています。87ページに「国学院法学」1-1 (1964) とあるので, 所蔵の有無を調べると, 創刊号より所蔵の指示がある。メインカウンターで請求して下さい。

自分自身で先づ調べて, なおわからない点については, 図書館員の側面的援助を得て, 図書館資料をどしどし活用して下さい。

図書資料収集の仕方

図書館が収集の対象としている資料は主に図書であるが, 新図書館の発足とともに視聴覚資料(以下A V資料という)も加えた。この図書資料収集の第一段階は出版情報源のキャッチから始まる。東販・日販等商業ベースにのりもの, 非営利出版関係のもの等内外のあらゆる出版に関するニュースは図書選択室で整理・保管される。

図書資料収集の大要は中央図書資料選択委員会(以後中選という)によって決められる。中選は図書資料選択の基準・収集計画・予算措置, 対学内図書館との協力, 高価本の購入等基本的な問題を審議し, [主題部門] 図書資料選択委員会(以下図選委という)に提示する。

図選委は中選から示された収集方針に基づいて, 具体的な図書資料の選択を以下の場合に行う。

- (1) 収書係から示された出版ニュースに基づいて(週1回主にパンフレット・販売図書目録・書評紙等によって)
- (2) 書店の図書資料現物持込見計い(月2回)
- (3) 教員推薦図書(その都度)
- (4) 学生希望購入図書(週1回)

以上の選択の後, 受入図書資料の購入は収書係を通じて行われる。但し, A V資料は館内A V委員会の意見を参考にして中選で購入が決定される。

近年, 情報量の増大にともない, 図書資料収集は網羅的な情報源把握と適確な選択が求められる。本館では収集方針の成文化を目指すとともに, 館員を人文・社会・自然の3部門に分け, 各館員の関心主題領域から, 既存の選定図書目録による所蔵調査, 書評紙, 古書目録, 専門雑誌等に目を配って蔵書の充実を計っている。また, 図選委は必要に応じて各主題の専門家をオブザーバーとして加え, 幅広い検討のもとに収集活動を推進している。

参考までに示すと, 今年度の予算は約2285万で受入図書は和洋併せて5,858冊におよび, 購入雑誌は和洋併せて248タイトル(今年度増加分76タイトル)に増えた。(但し, 寄贈雑誌は和洋で714タイトル)

《注》 ※1 図書資料とは図書・雑誌・新聞・パンフレット・マイクロフィルム・視聴覚資料等大学図書館が必要とするすべての資料をさす。

※2 但し, 館内では通常S・D・Sと呼称する。

※3 「A V資料の収集運営に関する基本方針の企画・立案その他を行うことを主な任務とする。」(昭和49年9月12日付A V委員会答申より)

私立大学図書館協会総大会・研究会

本学で開催 — 7月24日（木）～ 26日（土）—

第36回私立大学図書館協会総大会・研究会が7月下旬に本学で開かれることになった。

インドのランガナータン（S. R. Rangnathan）氏は「図書館学の5原則」として次の項目を挙げている。①図書は利用のためにある。②図書はすべての人のためのものである。③すべての図書をその読者に。④読者の時間を節約せよ。⑤図書館は生成発展する有機体である。

これは、図書館のあり方について述べているといえます。私達図書館にかかわるものは、図書館を利用する人のために、つねにその正しい欲求に答える努力を忘れることはできません。そのために日常の成果を、調査・研究の結果を持ちより相互啓発につとめております。

標記の総大会・研究会は、加盟校は200校をこえ、約300人の私大図書館関係者が集まり、1年間の各地での成果を、調査研究の結果を報告討議し、今後の大学図書館の改善発達を図ることを目的としています。

大学図書館関係者がこれほど多数本学に来訪されるのははじめてであり、総大会・研究会に立派な成果をあげよう、会場校として、その準備にとりかかっており、本学関係者のご理解とご協力をお願いいたします。

また私立大学図書館協会の他にも、各種の図書館関係の組織がそれぞれの分野に応じて設けられ、図書館の目的達成のために活動を続けています。この秋には、日米大学関係者の努力により、第3回日米大学図書館会議が京都国際会議場で開かれる予定です。

昭和49年度図書館刊行誌・館内諸規程等一覧

- 同志社大学蔵書目録 第3巻 自 昭和45年 至昭和47年 同志社大学図書館 昭和49年
- 同志社大学図書館 雑誌新聞目録 昭和49年3月末現在 同志社大学図書館 1975
- 同志社大学 継続雑誌新聞目録 昭和49年3月末現在 同志社大学図書館 1975
- びおりおてか（図書館報）No. 16. 昭和49年10月1日 別冊教員推薦図書一覧 2月1日
- 雑誌新聞整理要領 昭和49年7月15日（雑誌規定を改正）
- 禁帯出図書資料の範囲 ○禁帯出図書資料の特別館外貸出施行細則
- 同志社大学図書館貴重図書資料指定基準 ○同志社大学図書館貴重室図書資料利用内規
- 貴重図書資料に関する事務要領 ○文庫に関する内規および事務要領
- 同志社大学図書館同志社資料室に関する事務要領 上記7件 昭和50年4月1日実施
- 部・館・所用図書除籍手続要領 同志社大学図書館 1974
- AV委員会答申 昭和49年9月12日〔AV資料の範囲、収集方針・業務内容・組織・設備、特殊標目表、視聴覚室・AV室・マイクロリーダー室・オーディオ室に関する利用内規（暫定）、利用申込書〕



あ と が き “びおりおてか” 17号をお届けします。

- 今年度の目標として3階未仕上げ部分の完成計画の館内立案が課題となっている。学内外関係者の貴重なご意見を得て、より充実した計画の樹立が望まれる。
- 今回は、新入生を迎える4月（新年度にもなる）の発刊であり、原稿をお寄せいただいた、諸先生にその点でのご配慮をお願いした。貴重な時間をさきご協力いただいた先生方に心から感謝を申し上げる。
- 毎号連載を続けてきたピックアップについては、都合により今回は割愛いたしました。ご了承下さい。

“びおりおてか” 同志社大学図書館報 No. 17 1975年4月1日 発行

発行 同志社大学図書館 京都市上京区今出川通烏丸東入 電話 211-2311

編集責任者 楠 見 愷 伸（図書館庶務課長） 印刷 芳文堂印刷所